

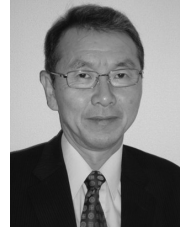
Departure

English Expression

Departure English Expression I, II Revised

を使って確かな表現力を伸ばす

山岡憲史



■「英語表現」の授業を見て

現行の学習指導要領のもとで、高校生の4つの技能を統合的に伸ばす指導が本格的に始動して4年が経過しました。この間の「英語表現」の授業はどのように変わったのでしょうか。

研究指定校など授業改革に取り組む高等学校では、「コミュニケーションを支えるための文法」という意識がかなり浸透してきており、文法の持つ機能を生かした言語活動が行われています。

しかし、「英語表現」における文法や活動には次のような課題があるように思います。

- (1) inputの方法や「総合参考書」の活用法
- (2) formの定着のための訓練の在り方
- (3) 知的好奇心を育てる文法中心の活動の方法
- (4) 書く活動と話す活動のつなげ方

■表現力を伸ばす

英語の表現力をつけるために文法の知識が重要であることは言うまでもありませんが、文法の知識だけで表現力が伸びることはありません。speakingには言いたい情報を何とか伝えるための方略や、表現の機能や使用場面および appropriateness を理解して、適切に使用できる力が必要です。一方、書く表現力には、話す場合以上に文構造の正確性ととも、文章構成に関わる paragraph writing の技術を欠かすことはできません。また文法の知識を定着させ使えるようにするには、理解させた後ですぐに活動に移っても効果は少なく、またその活動も自分の体験等を話す程度の知的な刺激の少ないものでは、確実な表現

力につながりません。知識を表現力に転化させるためには、表現に使える文法事項を精選して習得させ、inputの後にはformを定着させるための適切なドリルを行い、生徒が表現したくなるような information gap の豊かなテーマで話させたり書かせたりするという手順を踏まなくてはなりません。さらに、書いた後には話す、話した後は書くという2技能を使った活動を取り入れ、相互の影響による気づきを促すことで表現力が強化されていきます。

inputではできるだけ一方的に解説する時間を少なくして生徒の主体的学習を促し、ドリルは単調になることを極力避けるため、文脈のあるものや興味深い内容のある文例で行いたいものです。また、文法を意識的に使う Planned Focus on Form の言語活動は、テーマが平易なものになりがちですが、高校生の知的好奇心に訴えかけるテーマで表現させたいものです。

■『Departure 英語表現』の文法の扱い

改訂版『Departure 英語表現 I』(以下DIと表記)では、表現の幅を広げることができるよう、初版の文法項目を増やし、1レッスンの例文を最大10文としました。授業における文法解説をできるだけ省力化するために、使い方や機能・ニュアンスの注記をつけていますが、限られた時間の中ですべてを詳しく説明することには限界があると思われます。そこで、初版からの基本方針である「使えるための文法理解」を促進するために、学習者の主体的な学習を促すことが肝要です。その

必要に応えるべく、今秋刊行される『ジーニアス総合英語』の併用をご検討ください。この参考書は、語法や表現の持つ機能や話者の心情の解説に定評がある『ジーニアス英和辞典（第5版）』との緊密な連携を図り、DIが扱う文法事項理解を全面的にサポートするべく、学習者にわかりやすい解説を心がけて丁寧に編集されています。従来の「総合参考書」が記述している文法形式と意味だけでなく、その機能や発話の意図やニュアンスにまで理解を深められる次世代の参考書としてお役に立てることと確信しています。

改訂版『Departure 英語表現 II』（以下DIIと表記）では、DIで扱った文法事項を表現の観点から整理し（Part 1）、機能別に再度復習します（Part 2）。ここでも、『ジーニアス総合英語』で学習した基礎力が大いに役立ち、さまざまな表現様式を使う観点で学ぶことができることでしょう。

■『Departure 英語表現』の文法演習

前述のとおり、文法を理解した後は演習によって習熟することが求められます。DI、DIIとも、語句整序、和文英訳など従来の形式の演習問題のほか、DIでは新たに、文章の中で文脈から文法の働きを理解させる空所補充問題と、grammar-ingの手法を使った英文完成を導入しました。これらは、形式に慣れさせるとともに、文法を活用して英文理解や表現につなげるための演習です。問題の例文の内容はDI、DIIともそのレッスンのテーマに即しています。レッスンが進むにつれて高度な内容の文が増えますが、後の表現活動への助走であるとともに、テーマに即した語彙や表現を学習させるという意図が込められています。

また、文法の演習を充実させるために、付属教材として『グラマーノート』を完備しています。生徒の理解度に応じて、「ベーシック」と「スタンダード」があり、文法解説も加えていますので、家庭学習用として活用していただけるでしょう。

■『Departure 英語表現』のlisteningとreading

DI、DIIにはともに、writing活動の前にlisteningとreadingのタスクを用意しています。この活動が意図することは、文法事項が実際の対話や文章の中でどのように使われているかを理解させることと、writing活動に内容的、形式的に参考となるような例を示すこと、そして、聞く力と読む力を鍛えるためです。「コミュニケーション英語」で言語活動が増えたことの課題として、読解量が不足しがちであるという悩みをよく聞きますが、それを補充するためにも、また、生徒の批判的思考力を鍛えて表現への意欲につなげるためにも、テーマに焦点を当てたこれらの受容的活動は非常に意義があると思われます。

■『Departure 英語表現』のwriting

DI、DIIの最大の特徴として多くの先生方から高い評価を得ているのがwritingのタスクです。writingは、前述のごとく文法知識の正しい援用とともに、書くべき内容を整理し論理的に構成を考え、cohesionやcoherencyに配慮して完成しなくてはなりません。従って、論理的なわかりやすい文章を書けるようにするには「～について100語程度の英文を書きなさい」という指示を与えてたくさん書かせるような指導ではなく、手順を追って徐々に書き方を習得させる指導が大切です。

このような考え方のもと、DI、DIIでは丁寧にprocess writingの手ほどきをしています。まずDIでは、質問に答えたり文や表を完成したりして書くべき内容を引き出し、model paragraphを参考に1 paragraphを完成できるように導いています。語数も最初は50語程度から始め、最終的には100語のparagraphを書けるように手順を踏みます。DIIでは文章の中に自分のアイデアを埋め込む形でDIの復習をし（Part 1）、reading素材のKeynote Passageの文章構造を

Outlining で分析した後、テーマに基づいたキーワードを参考に、Keynote Passage と同じ構成で 1 paragraph を完成させます (Part 2)。さらに、Part 3 では、アイデアのマッピングを行って topic sentence を決め、それに supporting sentences を加えて根拠や具体例で肉付けをし、concluding sentence へとつなぐ一連の手順を段階ごとに詳述し、複数の paragraph が書けるように指導しています。このように、負荷の低いタスクから高度な essay writing まで順序を追って書く訓練を重ねることによって、生徒の英語を書くことへの慣れと自信を育て、いい書き手を育てる工夫を凝らしているのです。DI, DII を使った writing 指導で、GTEC for Students や英検、模擬試験の writing の成績が上昇しているという事例も多く寄せられています。

writing の指導は手間や労力が要するため、未だに敬遠されがちですが、「英語力の要は書く力」という信念を形にした DI, DII の process writing で、生徒の表現力を伸ばしていただければと思います。「教科書通りに授業すれば、わざわざ言語活動を考える必要はない」—このような感想もよく聞きます。プロセスを重視した指導は、教えやすさにもつながり、添削や評価の負担を軽減するという大きなメリットもあります。

■『Departure 英語表現』の speaking

『Departure 英語表現』では即興で話すことと、書いた文章をもとに話すことの両面に力を入れています。DI と DII の Part 1・2 では最初の Warm-up でテーマに関連した質問に答えて即興で話すことでコミュニケーションの瞬発力、fluency を伸ばすことをねらいとしています。DI では文法演習の後に、学んだ文法を使って話す練習を用意し、DII の Part 4 では、読解材料をもとに考えを話す活動も盛り込んでいます。

一方、書いたものをもとに話す練習は DI・DII とも writing 活動の後に置き、まとまった内容を

論理的に話す力をつけるように配慮しています。

さらに DII では、presentation, speech, debate, discussion に46ページを割き、原稿作成や意見構築の段階から発表・議論に至るまで懇切丁寧に指南しています。まさに、次期指導要領の方向性にマッチした次世代の英語力養成をめざす内容となっています。

■大学入試、次期学習指導要領を見据えて

改訂版 DI, DII の大きな特徴を述べましたが、その他に、大学入試対応にも入念に配慮しました。前述のとおり、「読んで書く」という観点を重視していることに加え、DII の Ways to Express It で取り上げた日本語の言い換えによる英作文演習を用意して、和文英訳対策に資しています。さらに入試に頻出する学術的語彙も多く取り入れています。さらに DII の教師用指導書には、大学入試自由作文の指導実例をテーマごとに詳述しています。

次期学習指導要領では、speaking を Speaking for Interaction (SI), Speaking for Presentation (SP) に分け、5 技能 (領域) の育成を目指す方向性が打ち出されると言われています。また、主体的・対話的で深い学びを重視し、debate や presentation などのアクティブ・ラーニング型の授業展開を求められるでしょう。近い将来に予想される 4 技能型入学試験に向けて、確かな speaking 力、writing 力を身に付けさせる授業への転換も急務です。DI, DII を活用し、社会、科学、歴史、グローバルなテーマで意見を表明したり深く考えたりすることによって、「思考力」「判断力」「表現力」を養ってほしいものです。『Departure 英語表現』を効果的に活用していただき、意欲ある先生方の指導のもと、教科横断的で知的刺激にあふれ、生徒が躍動する授業が展開されることを願っています。

(やまおか けんじ・立命館大学教授)